

問

高齢者の終活支援事業を実施せよ

1人暮らしの高齢者などの終活課題に、あらかじめ解決を図る「仮称エンディングプランサポート事業」を実施してはどうか。また、介護、葬儀などをすべて記載できる、エンディングノートを配布し、目立つ場所に置くことで終末期医療への備えができるのである。

答

相談体制を強化し、終活支援を推進する

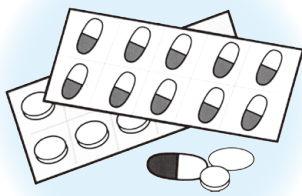
民間などの専門知識や事例を参考にしながら、相談体制を強化し、終活支援を含めた地域包括ケアシステムの推進を図っていく。また、エンディングノートの目的や役割の理解を図るとともに、配付が可能となるよう市独自のノート作成に向けて検討する。



高木隆三 議員
(公明党)

問

国民健康保険医療費適正化は



多剤問題に厚労省が取り組み始めた、服薬数が多いほど飲み間違えや飲み忘れの可能性も高い。多剤併用による健康被害をどう防ぐか。厚労省は多剤併用の被害を防ぐための指針を30年度までに策定する方針。行政は市民への意識啓発を強めるべきである。

答

多剤併用への対策、意識啓発に努める

特に高齢者においては多剤併用による薬物有害事象発生リスクが指摘されている。データヘルス計画には医療費適正化とあわせ重複服薬対策を盛り込む予定である。また、おくすり手帳の活用やかかりつけ薬局をもつなどの意識啓発に努めていく。

問

予算編成過程の透明化を

市長は、昨年12月25日に自身のブログで、29年度一般会計当初予算の概要を公表している。ならば、越谷市や久喜市のように予算査定理由など予算編成過程の公表をして、行政運営の可視化を進めるべき時が来たと考えるが、いかがか。

答

先行事例を参考に課題を整理

予算要求額、予算査定状況などを予算編成過程で公開することについては、その情報が流動的な要素を有しているため、慎重に検討する必要がある。市としては今後、先行事例を参考とし、様々な課題を整理していきたい。



黒須大一郎 議員
(共産)

問

学ぶ子も教える人も元気に



篠津中学校情報技術部

部活動は、学校教育の一環である。しかし、その定義には、曖昧な点があると判明した。部活を学ぶ生徒も教える指導員や教員も元気にするため、市独自の部活動ガイドラインの策定を急ぐべし。さらに取組を示すために市内NO部活デー(例0の付く日)の実施を。

答

部活動ガイドラインの策定を進めていく

部活動は、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養に資するものであり、各校が教育課程との関連を図りながら実施している。今後、生徒の健康面や教職員の負担軽減にも配慮し、部活動の定義や休養日の設定を含めた、市の部活動ガイドライン策定を進めていく。